



学会報告

8th Annual Conference of Asia Epigenome Alliance 2nd Taipei Epigenetics and Chromatin Meeting

九州大学 生体防御医学研究所 東田 裕一

2013年11月6日から8日に、台湾・台北市で開催された Annual Conference of Asia Epigenome Alliance に参加しました。第8回目となる今回は、港南区に位置する台湾の最高学術研究機関 Academia Sinica (中央研究院)において、Taipei Epigenetics and Chromatin Meeting との合同開催でした。Conference 前日の夕食前に Li-Jung Juan (自称今学会の secretary とのことでしたが、実際には運営の中心を担った人物です) が Academia Sinica の生命科学系の研究所を案内してくれましたが、設備や研究支援(ドラッグスクリーニングやマウスの表現型解析)がかなり充実している印象を受けました。

Epigenetics と発生・疾病に加え、最近のホットな領域である継承性やノンコーディング RNA、DNA 脱メチル化、ヒストンバリエントがセッションとして設定された今回の Conference は、米国から Dr. Robert G. Roeder、Dr. Jerry L. Workman、Dr. Yi Zhang、Dr. Howard Y. Chang、中国から Dr. Ruiming Xu、台湾から Dr. Kou-Juey Wu、Dr. C.-K. James Shen、韓国から Dr. Sung Hee Baek、インドから Dr. Sanjeev Galande ら 33 名の招待演者が講演を行い、参加者は 10 カ国から 407 名とのことでした。講演には unpublished のデータも含まれており、とても興味深いものでした。特に未解明の部分が多いクロマチン修飾の継承性に関しては、Dr. Bing Zhu (National Institute of Biological Science, China)、Dr. David J. Tremethick (Australian National University, Australia) がそれぞれ H3K27Me と H2A.Z の細胞分裂時における継承機構について興味深い講演を行いました。また、ヨーロッパからは Dr. Thomas Jenuwein (Max-Planck Institute, Germany) が、哺乳類ゲノムの 43% を占めるという反復配列からの転写制御における転写因子 Pax ファミリーや H3K9Me の役割について講演しました。日本からは佐々木

裕之先生(九州大学)、牛島俊和先生(国立がんセンター研究所)、仲野徹先生(大阪大学)、斎藤通紀先生(京都大学)と、short talk で私が講演を行いました。



写真1：夕食会にて。Conference 運営の中心を担った Li-Jung Juan (後列右端) とそのラボメンバー (前列右端は筆者)。

Conference は3日間でしたが、午前中の中の日を除いて朝から夕方までの講演で、比較的ゆとりのあるプログラムとなっていました。中日午後のエクスカージョンでは、九份、鼎泰豊、台北101、フットマッサージなど観光名所を案内してもらいました。九份では、演者は自由に買い物をしましたが、セッションでは見られない演者達の一面が垣間見える面白い機会でした。また、連日の夕食会では台湾、日本、中国、韓国という現在政治的には微妙な関係の国の研究者が、そういうネガティブなところは笑い飛ばし、サイエンスや各国について興味ある話題を語り合う楽しい時間を過ごしました。

アジアでの学会も欧米のものとはまた違った印象で面白いと思いました。しかしながら、まだまだ欧米の学会に対し、注目度や認知度は低いのが現状であると思います。アジアそして日本でも



っと素晴らしいサイエンスが繰り広げられることを期待し、私もエキサイティングなサイエンスに勤しみたいと思います。

写真 2 (右) : 金瓜石と九份の間にある黄金瀑布での記念撮影



国立がん研究センター中央病院 岸野 貴賢

2013 年 11 月 6～8 日、台湾の台北で開催された 8th Annual Conference of Asia Epigenome Alliance /2nd Taipei Epigenetics and Chromatin Meeting に参加してきました。学会は、台北の中心地から少し離れた郊外の Academia Sinica (中央研究院) という台湾最高の学術研究機関で行われ、その会場は、とても立派で空調もしっかり効いており、亜熱帯の国なのに肌寒さを覚えるほどでありました。学会は 3 日間で、世界各国で活躍されている科学者による plenary speech や最新の研究についての発表と poster session で構成され、活発な議論が繰り広げられ、大変盛り上がりました。今回の学会には、台湾の若い研究者たちも多く参加しており、縁あって大学院の学生さんと夕食を一緒にしましたが、彼らは英語も堪能なうえ、とても勉強熱心で感心させられました。僕も自身の研究を poster にて発表させていただきましたが、彼らといろいろと議論し、アドバイスを頂き大変勉強になりました。

学会は 3 日間みっちりというわけでもなくて、2 日目の午後は観光用にスケジュールが空いていましたので、当然、一緒に行っていた先生と観光へ繰り出しました！台湾では、もっぱらバスと台北捷運 (MRT) という鉄道で移動していましたが、鉄道の乗り方などは万国共通で、コインを入れて切符を買うだけと思っていましたが、切符ではなく、おもちゃのようなコインが切符の代わりでした。どうやら、コインの中に IC チップが内蔵されており、改札にかざして入場するというスタイルで、おそらくコインは再利用されるのでし

ょう。車両はとてもきれいで、何より驚いたことは、4ヶ国語で放送される車内放送ではなく、台湾の人々のマナーでした。乗る前は、整列して並び、降りる人を待ってから乗車し、車内の priority seat は、混んでいても必要がなければ誰も座ろうとしませんでした。研究熱心さに加え見習わなければならないなあと思いました。

台湾での食事は、どれも満足でしたが、特に小籠包が格別で、我々が連れて行って頂いたのは「鼎泰豊 (ディンタイフォン)」という世界 10 大レストランに選ばれた店でした。中が透けて見えるほどの薄い皮で包まれた熱々の小籠包を、酢醤油、刻み生姜とともに口に入れると、至福のひとつときであったことは、言うまでもありません。



写真 3 小籠包の名店「鼎泰豊 (ディンタイフォン)」にて、台湾の大学院生たちと (筆者：後列左)。



平成 26 年 1 月 1 日より研究会事務局が移転しました

情報を求めています！！

研究員・ポスドク募集および他の研究会のお知らせなど、ニュースレターを利用して公開してみませんか。年会に関するご意見・ご感想もよろしく願います。お近くの広報委員（中島欽一、梅澤明弘、角谷徹二、古関明彦、中山潤一各幹事）に気軽に e-mail ください。

日本エピジェネティクス研究会事務局

山梨大学大学院医学工学総合研究部

環境遺伝医学講座内

庶務委員長 久保田健夫

担当：岡崎恵美

住所：〒409-3898 山梨県中央市下河東1110

TEL: 055-273-9557 / FAX: 055-237-9561

E-mail: jse-jimukyoku@yamanashi.ac.jp